

JUL 7
2009

Press Forming Journal

特集：機械要素技術展09にみるプレス加工の潮流



I.NIX
アイニックス
TOOLから金型にいたる迄の全ての商品
新浸透拡散処理法

の技術を活かした製品をどんどん作り出すことで対応していきたいと考えています」(同)。

竹内型材研究所

精密金型部品メーカーとして創業以来、常にユーザーニーズに対応して新製品を生み出してきた竹内型材研究所(本社・工場:神奈川県伊勢原市鈴川6。内山真司社長。電話=0463-93-7771)の製品は、“MAST(マスト)”のブランドで親しまれている。大海原にそびえ立つマストのように、しっかりとした対応、品質、納期などのイメージが込められている。現在同社では「350社ほどの取引先を持っている」(内田俊樹会長)が、主要製品としては『ハードンプレート』がある。すでに熱処理研磨を施しており、工程削減、コストダウン、納期短縮に貢献するプレートで、13鋼種約300種の即納在庫品によって対応しているが、最近では「そうした標準品だけでなく、細かい要求をされたオーダーメイドの製品も増えてきており、迅速に動けるようなきめ細かい態勢を整えている」(同)という。また、スチールより硬度や対摩耗性が要求される製作用には『超硬プレート』が用意され、汎用種から超微粒種までどのような用途にも対応可能になっている。同社のもうひとつの大きな事業の柱は、ガイド系の部品など精密金型に使われる各種パーツで、『ボールベアリ

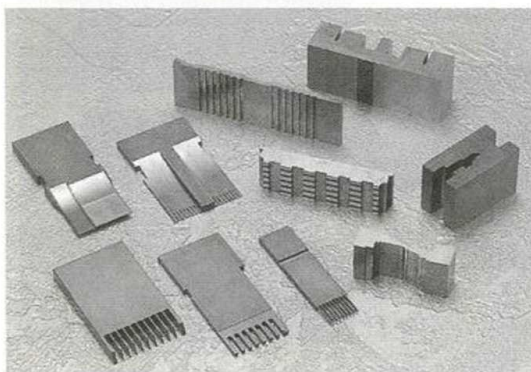


写真5

ングガイド』、『精密インサイトガイド』、『GPガイド』、『STプッシュ』などがある。これらは特にコネクタなどの電子・電機分野で使われることが多いが、「現在こうした分野は動きが鈍く、少し心配である」(同)状況のようだ。写真5は、同社の上下面研削加工済みで即使用可能な製品例である。

日本ゲージ

精密板金の技能集団を唱える日本ゲージ(本社:茨城県東茨城郡茨城町長岡3652。山野内十一郎社長。電話=029-292-2511)は展示品では小さい部品が中心であったが、比較的大型の曲げ加工製品を得意としている。通常2mまで曲げる工場は多くあるが、同社では3mまでは可能であるとしている。そして試作から量産の体制まで整えている。また設計から納品まで一貫生産体制を敷いているが、メッキなどは外注に任せている。また客先からの鏡面仕上げの要望に応じるため、いくつかの協力工場を持っている。主力製品はエレベータ関係で、ドアの開閉装置、三方枠、かご室などを大手エレベータメーカーに提供している。各種ステンレスの筐体では遠心分離機や顕微鏡などが最近では多い。そして看板部品としての切り文字や抜き文字なども受注している。「売上の70%がエレベータ関係の製品で占められているため、新分野として新幹線等の鉄道車両関係の分野に力を入れ始めています。新幹線ではアルミが多く使われておりますので、当社でもアルミ溶接部品が多くなってきています」(営業課加藤勇樹氏)。写真6は、新幹線の先頭車両の下部に取り付けられる制御シャーシである。折り紙のように板金加工で平板から抜き加工をし、折り曲げていって最後は溶接で製品に仕上げていく。「技術的なポイントは素材がアルミなので溶接が難しい」(武藤秀幸営業課課長)という。それをベ

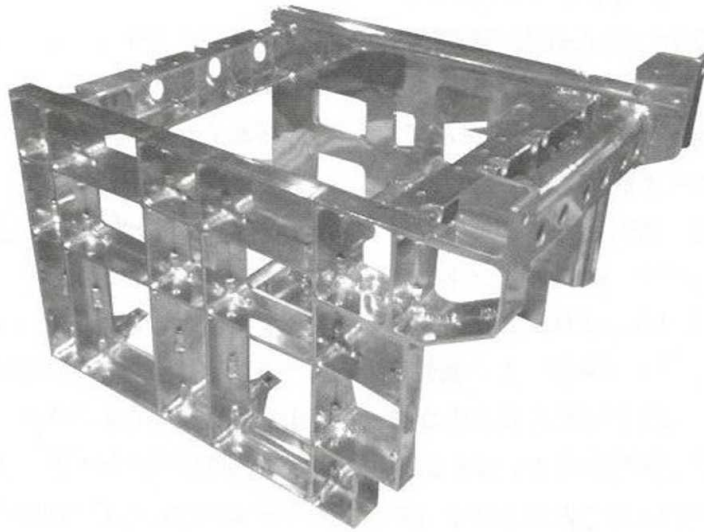


写真6

テランの5人のアルミ溶接工が行っている。今後も「精密板金の方向にはシフトせず、アルミの板金加工を強化していく方針である」(同)という。ちなみに同社は、今回展示したアルミのシャーシで“第21回優秀板金製品技能フェア”(主催：職業訓練法人アマダスクール)の溶接を主体とする組立品の部で銀賞を受賞している。

板橋共同受注グループ「イタテック」

1999年(平成11)年3月に設立された共同受注グループ(会長：大野精密・大野政一氏)である。現在の会員企業数は7社。板橋区内の機械加工の同業種9社が立ち上げたもので、機械部品加工のワントップショッピングを目指し、顧客ニーズを第一に掲げながら、高度技術を提供している。板橋区は東京都内でも有数のモノづくり地域であるが、景気の低迷や後継者問題などで廃業が目立ち始め、「地域内には製造業から離れていく企業が多い」(松本精機・鈴木敏文社長)。同グループも人的には減ってきているという。そうした状況のなかで、「今まで半導体関係の仕事をしていた所が原子力分野

に業態を変えるなど、少しずつ仕事の流動化が始まっているように思える」と、鈴木社長は指摘する。また景気の現況については、「当社もそうですが、ここにきて引き合いが出始めている、仕事が動いてきている」(同)というように、多少の手応えは感じられるようになってきた。同グループの発足当時の売上は、わずか600万円であったが、2004年以降は1億円を超えているように、「実績の積み重ねによって信頼を得、それによる効果が非常に大きい」(同)ようだ。現在では、盛岡や北上など全国各地にある同様のグループと連携を深めており、また大学とも積極的に共同研究を進めるなど、今後も都市型工業である“板橋モデル”を作り上げていく方向だ。

山口製作所

山口製作所(本社・工場：新潟県小千谷市片貝町10245-1。山口貴史社長。電話＝0258-84-2308)の創業は、1968(昭和43)年4月。プレス加工でスタートし、現在では金型の設計・製作から部品加工まで一貫生産体制をとっている。ユーザーには開発から量産までトータ